

1 決算のポイント

- (1) 収益的収支は118百万円の黒字を確保（2年連続の黒字）
 - (2) 予算対比での主な変動要因
 - ① 収入減要因（△73百万円）
 - ア) 施設使用料の減：△51百万円（空室の発生・未解消による減少）
 - イ) 売上高割使用料の減：△25百万円（中国の輸入規制による取扱量の減少、産地側の収穫量の減少）
 - ② 支出減要因（△41百万円）
 - ア) 資産減耗費(※)の計上：69百万円（R5年度中の改修工事に伴う固定資産除却費の計上）
 - イ) 市場管理費の減：△110百万円（委託料、修繕費等の節減による不用）
 - (3) 資金残高は1,466百万円となり、予算対比で263百万円の上振れ
- (※)資産減耗費…固定資産である建物設備の更新工事の際に、取り除くことになる古い設備について、その帳簿価額を減額し、減価償却費として費用化されていない金額を計上する会計処理。

2 決算総括表

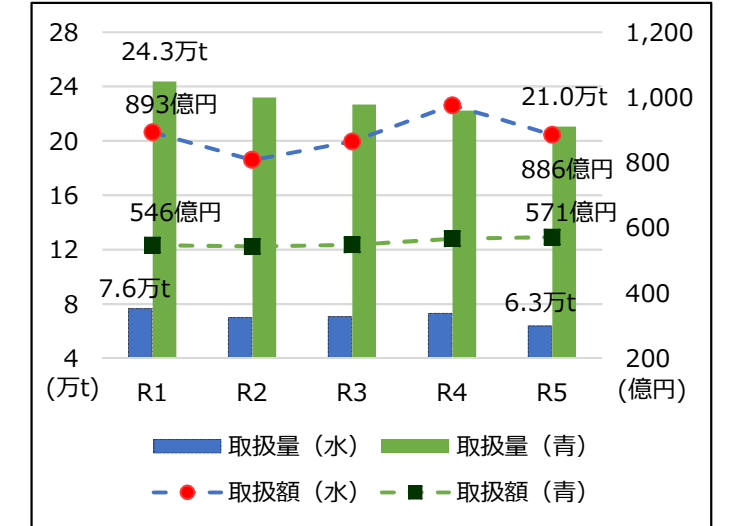
区分	収入			支出			収入支出差引				
	項目	最終 予算額	決算額	差引	項目	最終 予算額	決算額	差引	最終 予算額	決算額	差引
	(A)	(B)	(B)-(A)	(C)	(D)	(D)-(C)	(E)=(A)-(C)	(F)=(B)-(D)	(F)-(E)		
当年度分収入・支出	営業収益	1,726	1,635	△ 91	営業費用	2,050	2,012	△ 38			
	営業外収益	584	600	16	営業外費用	105	98	△ 7			
					予備費	5	0	△ 5			
	小計	2,310	2,235	△ 75	小計	2,160	2,111	△ 49	150	124	△ 26
	特別利益	0	2	2	特別損失	0	8	8	0	△ 6	△ 6
	計	2,310	2,237	△ 73	計	2,160	2,119	△ 41	150	118	△ 32
資本・支的 出 入	企業債	1,370	1,203	△ 167	建設改良費	1,375	1,204	△ 171			
	出資金	527	526	△ 1	企業債償還金	1,053	1,052	△ 1			
					予備費	5	0	△ 5			
	計	1,897	1,729	△ 168	計	2,433	2,257	△ 176	△ 536	△ 527	9
当年度分損益勘定留保資金等	588	603	15					588	603	15	
合計	4,795	4,570	△ 225	合計	4,593	4,376	△ 217	202	193	△ 9	
過年度分内部留保資金	1,001	1,273	272					1,001	1,273	272	
総計	5,796	5,843	47	総計	4,593	4,376	△ 217	1,203	1,466	263	

3 業務量

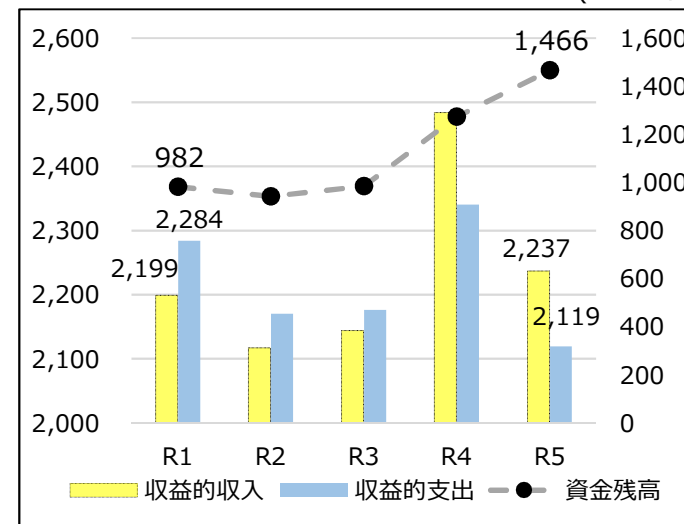
	(取扱量：トン)		増減額 (B)-(A)
	R4決算 (A)	R5決算 (B)	
取扱量			
水産物	73,209	63,989	△9,220(△12.6%)
青果物	222,294	210,530	△11,764(△5.3%)
計	295,503	274,520	△20,983(△7.1%)
取扱額			
水産物	97,626	88,603	△9,023(△9.2%)
青果物	56,690	57,157	+467(+0.8%)
計	154,316	145,760	△8,556(△5.5%)

水産物：「たら」や「にしん」の漁獲量減少に加え、中国の輸入規制により、「冷ほたて」などの流通が滞ったことで減少
 青果物：気候変動や産地の担い手不足などで、「だいこん」、「ブロッコリー」、「トマト」などの収穫量が減少。

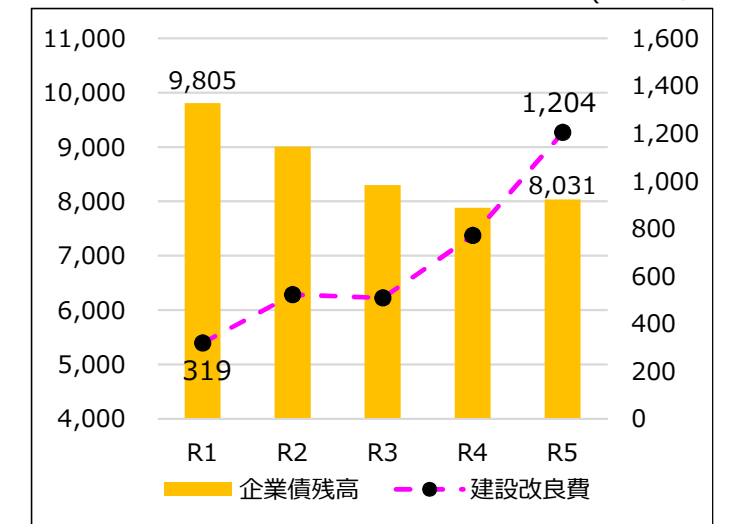
4 取扱量・取扱額の推移



5 収益的収支・資金残高の推移



6 企業債残高・建設改良費の推移



7 主な建設改良工事

工事名称	金額
電力設備監視装置更新	328
照明設備改修	231
青果棟屋上防水改修	215
立体駐車場デッキスラブ改修	122
水産棟冷暖房設備改修	69
水産棟1階仲卸店舗シャッター改修	38

8 経常収支の推移と計画

	R3	R4	R5	R6	R7	R8
経常収支 (計画値)	△ 65	125	161	102	54	56
経常収支 (実績値)	△ 32	53 (注1)	124 (注2)	-	-	-
差	33	△72	△37	-	-	-

(注1：別途、特別損益91百万円あり(合計144百万円の黒字))
 (注2：別途、特別損益△6百万円あり(合計118百万円の黒字))